

# 平成23年度琵琶湖の感覚指標による 水環境観察の展開

NPO法人預かりものを戻す会

## 1. 趣旨

琵琶湖は、水質保全計画に基づき各種の保全対策がなされ、汚濁付加は低減されてきたが、市民感覚からするとまだまだ厳しい状況である。そこで、琵琶湖を市民の目で観察し評価し、水資源の大切さと保全の取り組みを進めるための新たな調査方法の確定をはかる。

## 2. 調査方法

平成23年4月から平成24年3月にかけて、琵琶湖南湖・瀬田川周辺6地点で月1回、北湖周辺16地点で2月に1回、弊NPO会員を中心とした調査メンバーにより、（別添リーフレット裏面による）観察調査を実施し、併せて、COD（パックステスト）と透視度の調査を行った。

## 3. 調査地点（図-1・省略）

### (1) 南湖・瀬田川

#### a. 瀬田唐橋

近江八景の一つ、「瀬田の夕照（せきしょう）」として有名で、日本三名橋の一つでもある瀬田唐橋の中島にある青年会館前の地点。瀬田川は、琵琶湖から流れ出る唯一の河川で、ボートの練習風景がよく見られる。

#### b. 琵琶湖文化館

大津市打出浜にある城の形をした琵琶湖文化館の浜大津側の地点。石積み護岸となった「なぎさ公園」が整備され、釣り人や行楽客が多く訪れている。

#### c. 唐崎神社

「近江八景」の一つ、「唐崎の松」で知られる唐崎神社の石積みを降りた地点。観光のポイントになっている。近くにはヨシ帯があり、釣り船も多く見られる。

#### d. 浮御堂

「近江八景」の一つ「堅田の落雁」で知られる湖に突き出して建つ浮御堂（満月寺）の南側の地点。観光のポイントになっており、その南側には「おとせの浜」がある。

e. 北山田

草津市北山田浄水場付近の湖岸の地点で、石積み護岸の公園として整備されており、釣り人や行楽客が多く訪れる。

f. 赤野井湾

琵琶湖東岸の赤野井湾の湖岸で、ハス帯の北側の地点。この付近は水深が浅く、波によって巻き上げられる泥の影響により、よく濁りが見られる。

(2)北湖西部

g. 近江舞子

京阪神地域にもよく知られる風光明媚の地であり、湖辺には松林と白砂が長く続き、夏には若者や家族づれなど大勢の水泳客が訪れる。琵琶湖遊覧の観光船の寄港地ともなっており、湖が荒れる冬季をのぞき観光客が絶えない。

h. 白髭浜

湖中に立つ白髭神社の朱色の鳥居近くにある水泳場で、松林に囲まれた白砂の浜である。国道161号沿いに駐車場があり、夏は水泳客が多く訪れ、若者たちのデートスポットともなっている。

i. 萩の浜

JR高島駅の北東約1kmのところにある水泳場で、湖岸は松の大木がベルト状に数キロ続いている。湖西の浜辺によく見られるようにここも白砂が続いている。近年湖岸の砂が波で削られる浜欠けがみられ離岸堤が砂浜に築かれている。

j. 今津漁港

高島市では、竹生島と今津を結ぶ観光船が発着する今津港が知られるが、この調査地点は、今津港の約1km北にある、ビワマス、いさぎ、鮎、氷魚、鮒などの湖魚を水揚げする漁港である。湖西の他の調査地点と違ってコンクリート岸壁となっており、漁船が何隻か繫留されている。

(3)北湖北部

k. 片山

最北端の定点であり、湖岸は積み石護岸でわずかに砂浜が残っており、周辺は自然が豊かではあるが湖周道路が湖岸に沿って走っている。湖岸に人影は少なく、四季を通じて水に透明感がある地点である。

l. スポーツの森

奥琵琶湖スポーツの森から湖周道路を隔てた早崎港が調査地点である。早崎港はコンクリートで固められた漁港であるが、周辺には砂浜、ヨシ帯が続く。昼間はほとんど人影がない。

m. 南浜

砂浜であり、湖岸に人の手は加わっていない。また、湖周道路からも離れており、物音もない静かな場所である。夏は遊泳客でにぎわう水泳場に隣接した地点であり、付近には民宿や保養所や立地している。

n. 長浜港

竹生島や湖西と結ぶ観光船が発着する港であり、接岸用のコンクリート岸壁のほか、琵琶湖に突き出た消波護岸で港湾が構成されている。季節にもよるが、観光船の利用者や釣り人など、多くの人影が見られる。港湾内は水位低下時も接岸が可能なように掘り下げられている。

(4)北湖東・南部

o. 松原

彦根市街の北東部に位置し、約1kmの松原と砂浜が続く昔からの景勝地で、遠浅と水の清澄さを誇る琵琶湖有数の水泳場としても賑わっているほか、鳥人間コンテストが開催されることでも全国的に知られるようになった。水泳場の南に隣接するかんぼの宿や彦根港は人工湖岸で護られており、多彩な湖岸が形成されている。多くの観光客がこれらの施設を利用しているほか、国宝としても名高い彦根城も近くにある。

p. 須越

彦根市の中西部に位置する須越町の集落が湖岸沿いに発達しており、集落中央部を安食川が流れ、南には宇曾川の河口部を控えている。これらの湖東平野を流下してくる河川が造り出した狭い自然湖岸が集落に沿って続いている。南西部に島状山地の荒神山があり、その島陰に残された曾根沼も近い。

q. 石寺

彦根市の南西部に位置する石寺町の集落が湖岸に密接しているため、人工護岸が湖岸に迫っており、その湖側に狭い砂浜と消波ブロックが続いている。集落の北側には防風林を兼ねた松並木を備えた砂浜が3km続いており、北湖東岸の原風景を醸し出している。湖流の関係もあって、愛知川や宇曾川から流れだした自然ゴミが集積する地域でもあることから、湖岸に沿ってかなりのゴミが見られる。

r. 南三ツ矢

彦根市の最も南西部に位置し、湖岸道路（さざなみ街道）に面して滋賀県の湖岸緑地公園があり、アクセスの容易さやかなりのスペースの駐車場もあり、数少ないバーベキューが可能な公園として知られている。愛知川の河口部の北側に位置することから、公園に面する湖岸は遠浅の砂浜が広がっており、バーベキューだけでなく、水泳や浜遊びなどさまざまな楽しみ方が可能なため、シーズンには気の置けないグループや家族連れなどで賑わっている。遠浅の砂浜と湖上からの風邪

を遮るものがないため、砂の巻き上げが一年を通じて見られるだけでなく、後背地に肥沃な湖東平野を控えているため、農業排水の影響も見受けられる。

s. 宮ヶ浜

都を逃れた惟喬親王が琵琶湖から上陸されたことからこの地名があるとされている。北向きに広がる砂浜は向かいに沖島を望み、風光明媚で以前に「日本の水浴場 88 選」に選ばれた。わが国で最初にオープンした近江八幡国民休暇村の敷地内にあり、砂浜まで 芝生が植えられている。近年浜欠けで砂浜部は大きく後退している。

t. 長命寺港

長命寺山の麓で、長命寺川の河口部に位置するため、昔からの良港として利用されてきた。沖ノ島の中学生と生活物資を運ぶスクール船や漁船のための港で、定期船の港としての利用はない。

接岸用の人工岸壁や、消波堤が港湾を形成している漁港の中では規模が大きい港で、他の港同様水位低下時も接岸が可能なように掘り下げられている。

u. 牧水泳場

日野川河口右岸部に続く砂浜地で、遠浅で一部に岩礁地がある。岡山を背後にした長命寺湾の南奥部に位置する。北面するため冬季の北西風をまともに受ける。しかし、長命寺湾の奥部であり大きな水の動きは少ないと思われる。かつては牧水泳場として知られていたが、近年は近傍の湖岸緑地（都市公園）でのキャンプ地としての利用が中心である。ウインドサーフィンなどマリンスポーツのスポットにもなっている。

v. マイアミ浜

北湖調査定点の中では最も南に位置し、東岸特有の遠浅の砂浜が広がっている。湖周道路が湖岸に沿って走っているが、松林に隔てられているため、景観や音源としての影響はほとんどない。遠浅の浜が広がるため、水は風波の影響を受けることが多い。キャンプや水浴を楽しむ観光客などで夏期は賑わう。